

# 新型コロナウイルスによる 運動・スポーツへの影響の 国際比較（イングランド・オランダ）

笹川スポーツ財団

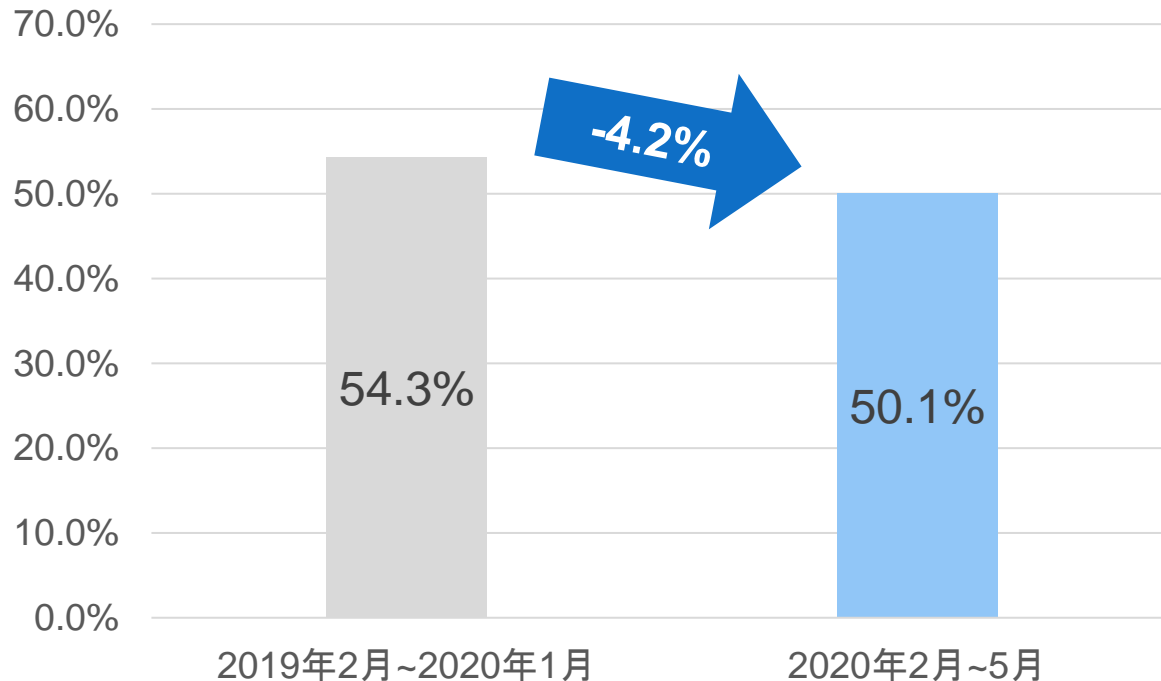
# 運動・スポーツ実施状況 –日本の状況–

## 運動実施率は減少、特に中頻度層の実施頻度が減少か

- 実施率については、昨年1年間と比較して、新型コロナの影響を受けた2020年2月~5月期は-4.2%の減少
- 実施頻度では週に5日以上の高頻度層はあまり減っておらず、週に3日~1日以上の中頻度層の減少幅が大きい、一方で月に1~3日、3か月に1~2日の低頻度層は増加しており、中頻度層の実施頻度が低下し、低頻度層に移行していることがうかがえる

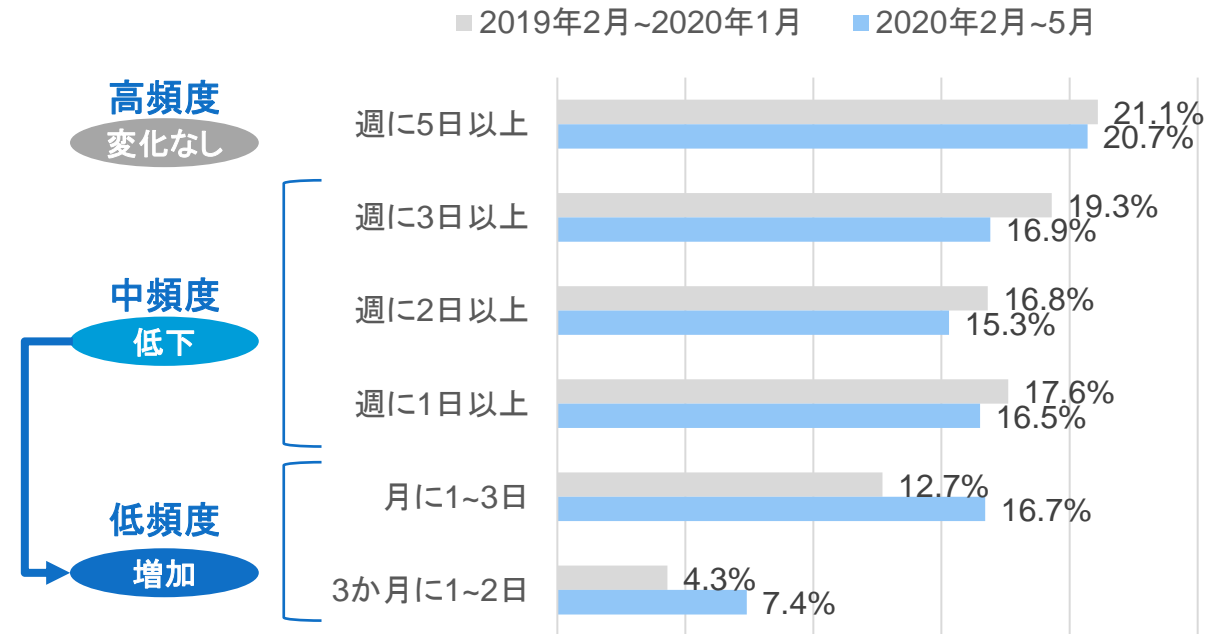
### 運動・スポーツ実施率

下記の期間で1度でも運動・スポーツを行った人の割合



### 運動・スポーツ実施頻度

下記の期間で運動・スポーツを行った人が実施した日数の平均



# 運動・スポーツ実施状況 –イングランド・オランダの状況–

## 各国でも新型コロナはネガティブな影響を与えている

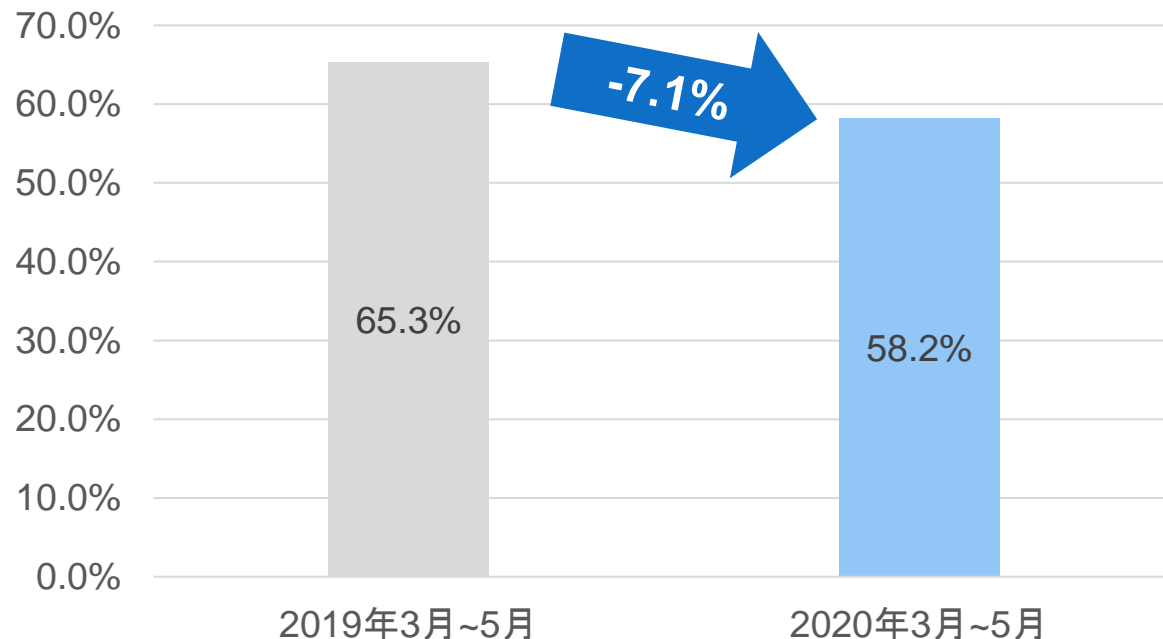
- 英国(イングランド)ではロックダウンなどの規制が本格化した2020年3月~5月は前年同期と比較して-7.1%のアクティブ層が減少
- オランダでは、月次の実施率の推移を公表しているが、2020年3月は前年同期および同年前月と比較して、いずれも10%以上の減少となっている。一方でオランダでは、その後実施率が持ち直しており、2020年7月ごろにはほぼ前年と同じ水準に達している



### 「アクティブ」な成人の割合

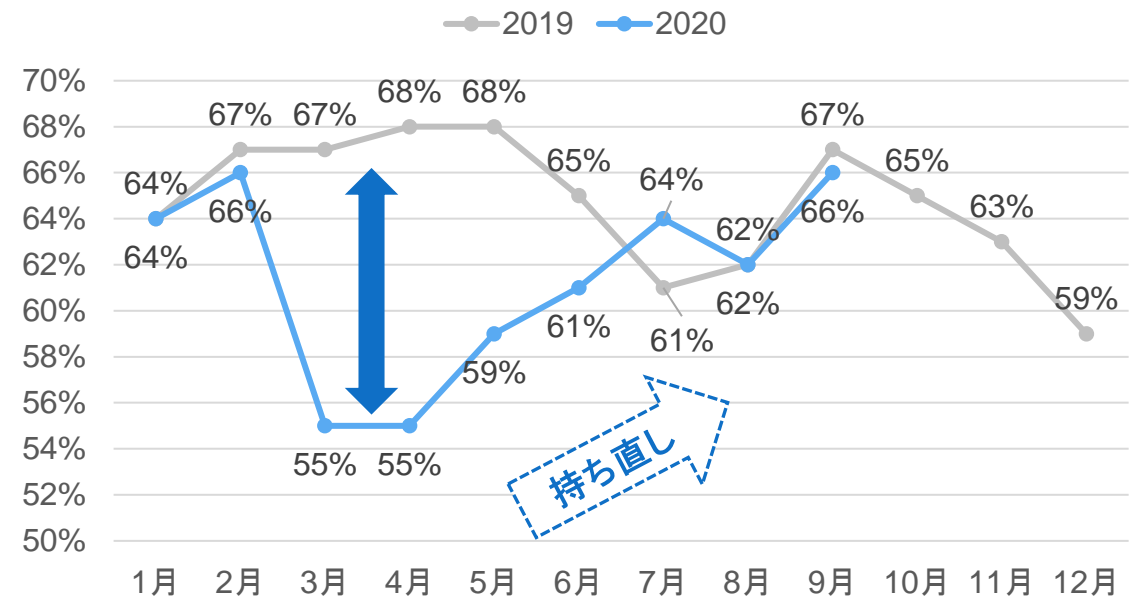
下記の期間における

アクティブな層(週に150分以上の中強度の運動を実施)の割合



### 月次スポーツ実施率の推移

月に4回以上の運動・スポーツを実施している人(5-80歳)までの割合



# 種目別運動・スポーツ実施状況 –日本の状況–

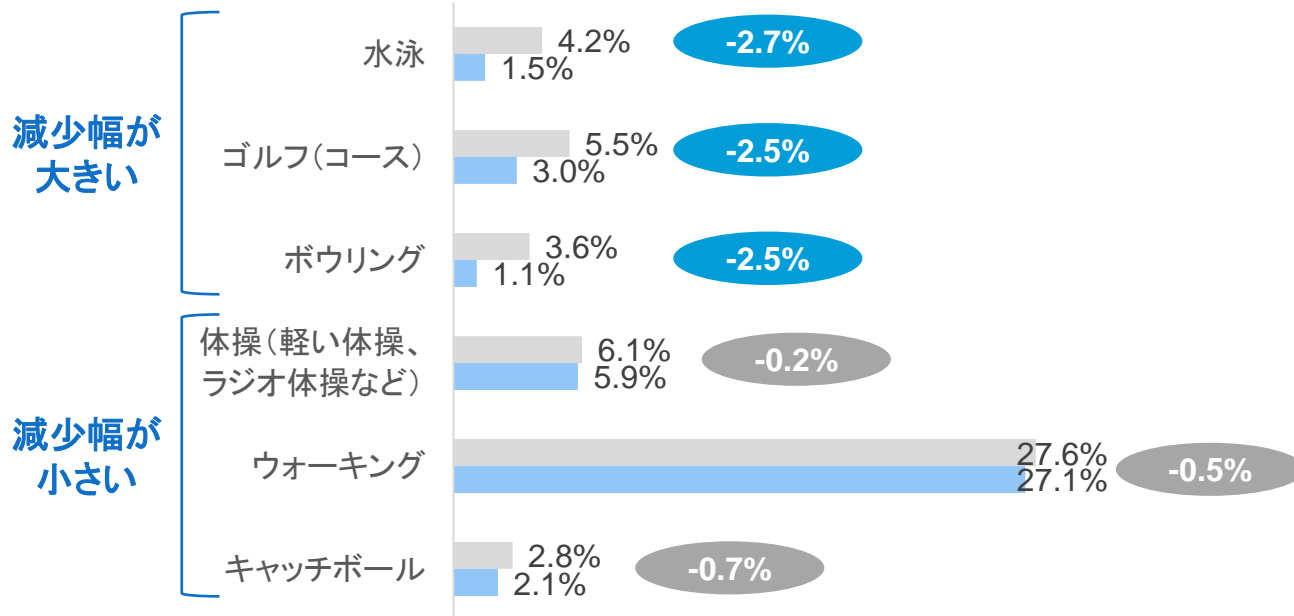
## 施設利用を伴う種目や団体種目への影響が大きい

- 種目別実施率では水泳、ゴルフ、ボウリングなど、施設利用を伴う種目の減少幅が大きく、体操、ウォーキング、キャッチボールなど、どこでも実施できる種目の減少幅は小さい
- 実施できなくなった種目としては施設利用を伴う種目に加えて、野球、バスケ、バレーボールなどの団体種目も上位にあがっている

### 運動・スポーツ実施率(減少幅大きい種目・小さい種目)

下記の期間で1度でも運動・スポーツを行った人の割合

■ 2019年2月~2020年1月 ■ 2020年2月~5月



### 新型コロナウイルスの影響で実施できなくなった種目(上位10種目)

2019年2月以降に1度でも当該運動・スポーツ種目を実施した人の中で、その後新型コロナウイルス感染拡大の影響により当該運動・スポーツ種目が実施できなくなった人の割合

順位	種目	割合 (%)
1	水泳 (施設)	77.8
2	野球 (施設 団体)	71.9
3	テニス(硬式テニス) (施設)	70.4
4	エアロビックダンス (施設)	69.7
5	ボウリング (施設)	67.9
6	バスケットボール (施設 団体)	63.6
7	バレーボール (施設 団体)	63.2
8	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など) (施設)	61.7
9	卓球 (施設)	59.4
10	ゴルフ(コース) (施設)	58.1

# 種目別運動・スポーツ実施状況 – イングランド・オランダの状況 –

## 海外でも同じく施設利用種目と団体種目への影響が大きい

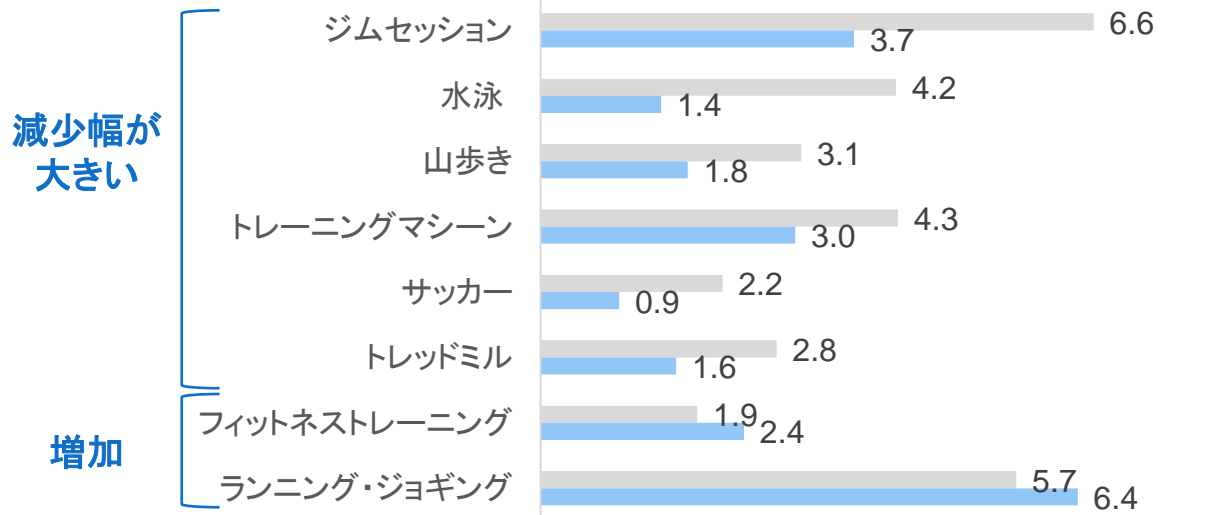
- イングランドでも減少幅の大きい種目はジムセッション、水泳、トレーニングマシンなどの施設利用種目やサッカーなどの団体種目。また厳格なロックダウンにより自宅近辺のみの活動となったため山歩きなどの種目も大幅に減少
- オランダでも、フィットネスや水泳といった施設利用種目やサッカーのような団体種目は前年と比較して減少している



### 実施が減少した種目・そうでない種目

過去28日間で1回あたり10分、合計60分以上、中程度以上の強度で下記の種目を行った人の推計人数

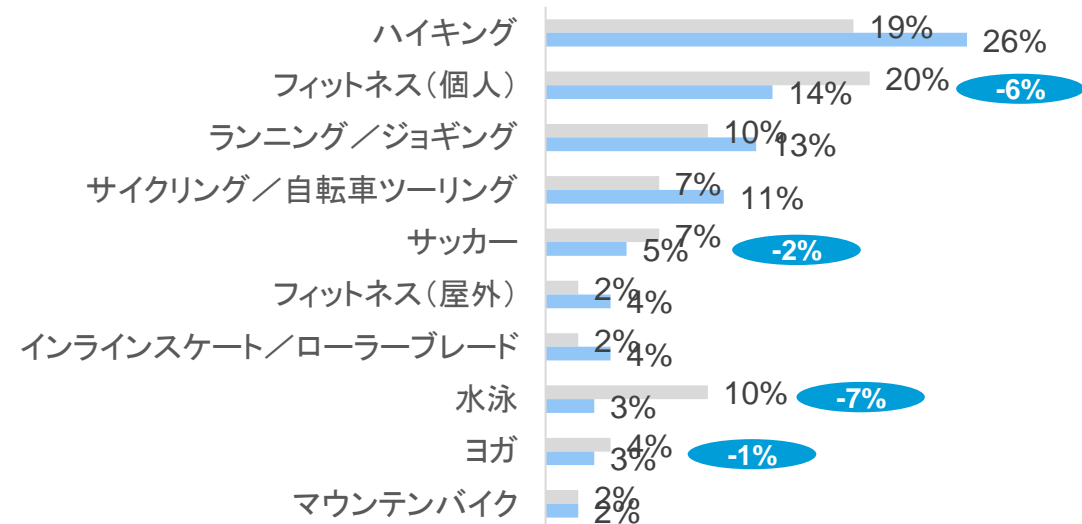
■ 2019 (3月~5月) ■ 2020 (3月~5月) (単位:百万人)



### 人気実施種目10位の前年同期比較

全年齢(5歳-80歳)

■ 2019年5月 ■ 2020年5月



# 国際結果の比較と今後に向けて

## 国際比較の結果 (日本・イングランド・ オランダ)

### <運動・スポーツ実施率>

- 今回比較を行った3か国においては、いずれの国においても新型コロナウイルスの影響により、運動・スポーツの実施率にネガティブな影響が出ていることがわかった(影響の大きさについては、調査方法やサンプル数が異なるため、単純比較はできない)
- オランダでは月次データを公表しており、7月以降に運動・スポーツの実施率が急回復していることがわかる。ただし欧州では10月以降、再度新型コロナウイルスの感染が拡大しており、規制が強化されているため、数値が再び悪化する可能性は高い
- 日本においても、オランダと同様に7月以降に運動・スポーツ実施率が急回復していくのか、笹川スポーツ財団では10月と2月に再度同様の調査を行うため、その中で見極めていきたい

### <種目別運動・スポーツ実施状況>

- 新型コロナウイルス感染拡大によってネガティブな影響を受けた種目として施設利用が必要な種目や団体種目が上位を占める傾向は各国共通であった
- イングランドでは、政府の規制により自宅近辺のみ活動が許可されていたため、遠出が必要となる種目(山歩きなど)の減少幅も大きかった。各国で実施している規制の内容によっても、影響を受ける種目が変化する可能性がある

## 今後に向けて

- 笹川スポーツ財団が実施した「新型コロナウイルスによる運動・スポーツへの影響に関する全国調査」では、本資料で海外との比較を行った調査項目以外にも、新型コロナウイルスの影響によるスポーツ環境の変化や今後運動・スポーツを実施する際に気を付けたいことなどについてアンケートを実施している。しかし現状それらの調査項目については海外の類似調査結果が見つからない。今後海外の類似調査結果を見つけた場合は比較を行っていく想定である(各国が実施している規制や発表しているガイドラインの内容の影響を受けて、回答の傾向が異なる可能性が予見される)
- 笹川スポーツ財団では既に10月に第2回の調査(国内)を行っており、2021年2月には第3回の調査を行うことを計画している。よって本資料の内容は、今後も更新していく予定である

# 調査手法の比較

- 本資料では笹川スポーツ財団が実施した「新型コロナウイルスによる運動・スポーツへの影響に関する全国調査」の一部を海外の調査結果と比較しているが、各調査の手法が異なっているため、調査結果の厳密な比較は困難である

	日本 笹川スポーツ財団 「新型コロナウイルスによる運動・スポーツへの影響に関する全国調査」	イングランド Sport England “Active Lives Adult Survey Coronavirus Report”	オランダ Nederlands Olympisch Comité * Nederlandse Sport Federatie :NOC*NSF “Sportdeelname Index”
調査方法	インターネット調査 (委託機関:株式会社クロス・マーケティング)	オンライン調査(CAWI)+紙ベース調査 (委託機関:Ipsos MORI)	月次オンライン調査
調査対象	全国の市区町村に在住する18~79歳までの男女	イングランド国内でランダムに選択された16歳以上の男女	オランダ在住の5歳~80歳の男女 (GfK社オンラインパネルを活用)
サンプル数	5,000	190,401	3,000~5,000 (月によって異なる)
調査時期	2020年6月3日~6月5日	2019年5月~2020年5月	各月の翌月数日間
URL	<a href="https://www.ssf.or.jp/thinktank/policy/covid19_f.html">https://www.ssf.or.jp/thinktank/policy/covid19_f.html</a>	<a href="https://www.sportengland.org/know-your-audience/data/active-lives">https://www.sportengland.org/know-your-audience/data/active-lives</a>	<a href="https://nocnsf.nl/sportdeelnameindex">https://nocnsf.nl/sportdeelnameindex</a>